

## （主な意見・質問）

（問）日土小は、国の重要文化財に指定されているから今回の対象から外れているということだが、双岩小も100年以上の歴史があり、地域の特色もあるのに、なぜこのような計画になったのかという思いがある。日土小も統合の対象にして、建物だけを残すという考えはないのか。

（答）日土小は、使い続ける文化財ということで、木造の学校として初めて国の重要文化財に指定されたので、第二次実施計画の後期計画ではそのような書き方をしている。子どもの数が減少しているので、教育委員会としては、現在の各小学校の校区や公民館のエリアではなく、市全体の大きなエリアで再編を進めていく考えである。次期の第三次実施計画では、その点を含めて検討されると思う。

（問）第三次実施計画は、いつ頃作成するのか。

（答）第二次実施計画は、平成30年度から令和9年度までの10年計画なので、令和9年度中には第三次実施計画を策定する必要がある。

（問）双岩地区のスクールバスの乗降場所は、旧双岩中になるのか。

（答）スクールバスの乗降場所は、子どもたちの安全性が確保されていることが大前提なので、地域の方の意見を聞きながら決めていきたいと思う。また、地域によっては中学進学等により、送迎する児童がいなくなることもあるので、その場合は乗降場所の変更があると思う。児童数によって、マイクロバスや中型バス、ジャンボタクシーなど使用する車が違ってくるが、それにより車が進入できる範囲も変わってくると思うので、安全な乗降場所について検討していく。

（問）毎年、入学や卒業する度に子どもの人数が変わると思うが、それによって乗降場所を変更していくということか。

（答）小学生は6年間学校に通うので、それほど変更はないと考えているが、例えば、釜倉地区の場合に乗降場所を集会所にするのか。それとも、さらに奥の方に行くかは、子どもがどこに住んでいるかによっても変わってくる。

（問）中津川地区にも乗降場所を設定する考えはあるのか。

（答）中津川地区から八代中に通う生徒は、タクシーを利用していたので、中津川や谷、釜倉地区については、子どもたちが住んでいるかどうかで考えていきたい。また、通学支援については、スクールバスやジャンボタクシー、小型タクシーなどがあるが、子どもたちを安全に効率よく送迎できる方法を検討する。ただ、スクールバスを利用する場合、子たちを全員乗せるためには、始発時間が何時になるかということも考慮する必要がある。それによっては、スクールバスよりも、ジャンボタクシーなどを利用した方が良い場合もあるので、地区ごとの児童数の推移を見ながら、通学支援を検討していきたい。

（問）通学支援が決まれば、学校から通知が送られてくるということか。

（答）通学支援については、統合準備委員会（仮称）や作業部会で決めていくものと考えているの

で、決定次第、保護者に通知する。統合後に通学支援の変更が必要な場合は、学校と教育委員会で協議する。

(問) 登校時間は、皆一緒だと思うが、下校時間は学年によって違ってくると思う。例えば、地区によっては、児童が1人だったとしてもタクシーを利用することは可能なのか。

(答) 学年によって下校時間が違ってくるので、2便で対応することになる。ただ、スクールバスの場合には往復することになるので、待ち時間が生じることもある。

(意見) 中学生が1人で帰宅することは問題ないと思うが、小学校低学年が1人で帰宅することになれば、保護者は心配すると思うので、子どもがスクールバス等に乗車した時間に、保護者の携帯電話などに通知してほしい。

(答) 基本的には、事前に学校から1ヶ月の行事予定や下校時間を記したプリントが配布されていると思うので、それで確認してほしい。ただ、必要ということであれば、例えば、スマートホンで通知する場合にどのアプリを使い、誰がどのように通知するかについては今度の検討課題とさせてほしい。

(意見) 双岩地区では、子どもを午後6時まで公民館で預かってもらうことができるので、統合後も継続利用できるようにしてほしい。

(答) 川上小の保護者説明会でも、今年の10月から川上地区公民館に自主運営型の児童クラブが設置されたが、統合した場合も、そのまま継続してほしいという意見があったので、子育て支援課とも協議し、そのような要望があれば市が補助して継続していくことを考えている。

(意見) 双岩地区の子どもたちの中には、神山児童クラブに行きたいと思う子がいるかもしれないので、利用場所を選択できるようにしてほしい。また、各地区の児童クラブは、利用料金が発生すると思うので、事前に周知してほしい。

(答) 児童クラブの利用については、子育て支援課とも協議し、柔軟に対応していきたい。ただ、神山児童クラブを利用したいという双岩地区の子どもが多くなると、双岩地区の利用者が少なくなり、運営が難しくなると思うので、地区の皆さんで児童クラブを支えていくという考えも必要だと思う。なお、現在の市内の児童クラブの利用料は、一律月額4,000円で、夏休み期間の8月のみ8,000円となっている。

(問) 神山児童クラブは、何時まで利用できるのか。

(答) 市内の児童クラブは、午後6時まで利用できる。

(問) 統合により、神山児童クラブの利用規定も一新するのか。

(答) 小学校3校の統合により校区が広がるので、児童クラブについては、子育て支援課とも協議し、きめ細かい対応をしていきたい。できることとできないことがあると思うが、例えば、みかんの収穫時期の対応についても保護者の意見を聞きながら、より良い方法を検討していきたい。

(問) 子育て支援課の職員は、説明会に参加されないのか。

(答) 子育てに関する質問については、後ほど原課に確認し、「主な意見・質問」の中に追記して回

答したい。

(問) 過去に園児送迎バス置き去り事故もあり、小学校低学年がスクールバスに乗車する場合は心配になるので、先生も一緒に乗車することはできないか。

(答) 教員が同乗することは現在行っていないが、必要であれば、例えば、スクールバスに人感センサーや警報装置を付けるなど、子どもたちの安全のための最善策を検討していきたいと考えている。

(意見) 中学生が学校を休む場合にバス会社と学校に電話連絡しているが、二度手間である。できれば、子どもが学校を休む時に、スマートホンのアプリなどを使って簡単に連絡できるようにしてほしい。

(答) 連絡手段については、スマートホンのアプリや1人1台端末の利用など、様々な方法があると思うので、一番良い方法を検討したい。

(意見) 市内の学校数も今後減少するので、多くの子どもたちが集まれる場所があれば良いと思う。主に低学年が利用する児童クラブだけでなく、高学年の子どもの居場所も必要だと思う。学校が終わって、塾やスイミングなどの習い事に行く子もいるが、真っ直ぐに家に帰る子どももいる。その中には、仕事で保護者が不在となっている家庭もあると思うので、そういう子どもたちの居場所を作ってほしい。

(答) 神山小学校の向かい側にある地域活動交流拠点施設「あすもあ」には、子どもたちの遊び場があり、放課後になると子どもたちが集まってくる。銀座商店街には、夏休み期間中の長期休業中に子どもたちを見守る「やわたはま銀座バスケット」があるが、児童クラブと同様に利用料が発生する。子どもたちの居場所を作ることは、とても大事なことだと思うので、子育て支援課と協議していく。

(意見) 双岩中では、夏休み期間中の午前中のみ教員OBに見守りをしてもらっているが、1日子どもを預けたいという保護者もいると思う。その場合、神山児童クラブを利用することになるが、保護者が送迎をしないといけないので負担となる。

(答) 市内の児童クラブは、夏休み期間中は1日利用できるもので、普段は双岩地区の公民館で預かってもらい、長期休業中には神山児童クラブを利用することは可能だと思うが、その場合は原則保護者の送迎となる。

(問) 小学校と中学校が使用するスクールバスは、それぞれ別のバスになるのか。

(答) それぞれ別のバスである。